

---

## Catch the eye 2016年2月

---

2016/2/1 (月) リクルートスーツ女子 昨日の日曜は快晴だった。陽射しが春めいて、暖かった。絶好のマラソン日和かと思ったら、ランナーたちには暑さが堪えると大阪女子マラソンの中継で話していた。今日2月初日は曇り時々雨のスタート。

元日ははるか以前のように感じるほど、1月は何かと立て込んだ。あらかじめ細かく作業のスケジュールを立てていたから、まずまず滞りなくこなしてきた。まだしばらくは続くから、気をゆるめてはいけない。

それでも持って生まれた気質、すき間の時間に適度に息抜き。仕事の帰り道にある広隆寺でかの弥勒菩薩を15年ぶりに拝んだり、京都府庁の帰りに御苑へ寄ったり。

29日は翌日の会議のために前泊して永田町の国会図書館へ行った。たいていの本は大阪の図書館へ取り寄せられるが、そうできないものがある。一冊どうしても閲覧したい本があった。

他の図書館以上に入館は厳重。ガードマンや係りの人が入り口に立ち目を光らせている。東京駅から直行したので、大きめのロッカーじゃないとキャリーバッグが入らないが、さいわい一つ空いていた。

二列上下4つしかない大きなロッカーの上は使用中、下の左は先にその前に人が立っていた。荷物は入れ終わったようで、でもまだ鍵はかけていなかった。リクルートスーツ姿の女子だった。

右のロッカーに荷物を入れにかかった。狭いロッカーの通路に物置用の長机が置いてあるから、左のロッカーを前になぜかじっと立っているリクルート女子がジャマになる。

荷物を入れながら、怪訝な感じはしていた。持ち物だけを長机において、キャリーバックやコート、ショルダーバックをロッカーに入れた。100円硬貨を出して投入口へ入れ鍵をかけようとした。

しかし、硬貨が入らない。うん？右隣の通常のロッカーを見る。100円硬貨を入れるようシールが貼ってある。自分のロッカーに目を戻す。そこには「メダル」の文字。

メダル？ なんだそれは、お金をメダルに変えなければいけないのか、そんな機械がどこにあるのかとあたりをキョロキョロしていたら前の男性が声をかけてくれた。「メダルならガードマンに言えばもらえますよ」。

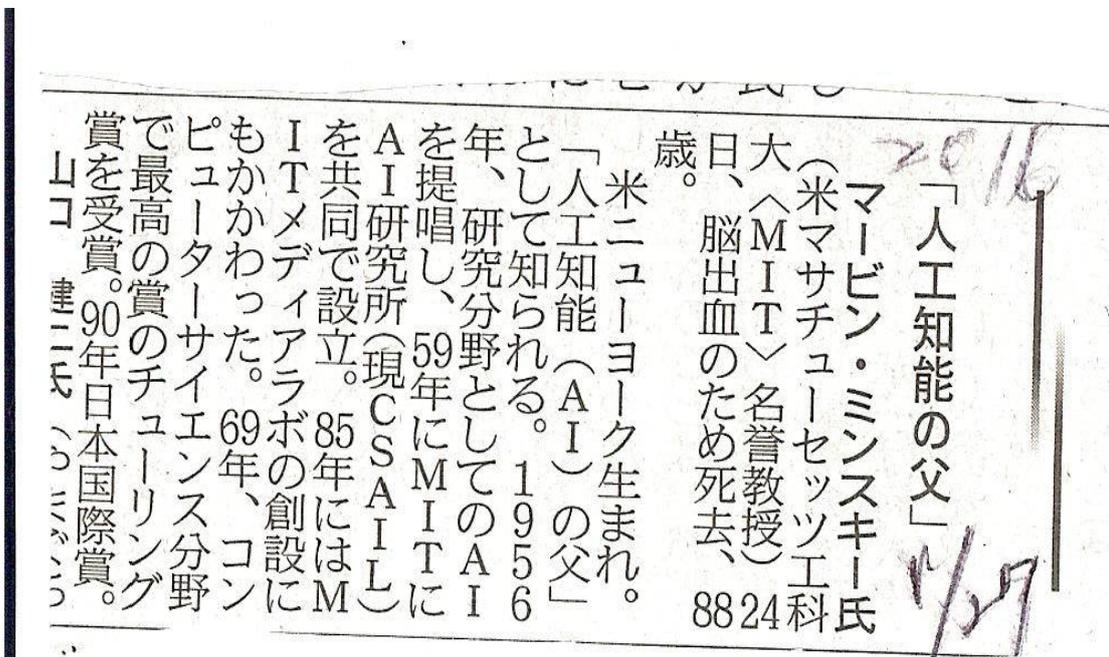
お礼を言って、荷物のことを気にしつつ、入館ゲートの方にいるガードマンに向かって歩き始めた。すると、後ろからリクルート女性がついてくるのがわかった。そうか、そうだったのか。

「あの一、メダルお願いします、この方もいるようです」と考  
えるともなく言葉がついて出た。ガードマンは両方にメダルを入  
れてくれた。途中で開けたかったら？と質問すると、また呼んで  
くださいということだった。

この間、彼女はお礼を言うこともなく、質問することもなかつ  
た。もしわたしが来なかったら、彼女は誰かが気づいて向こうか  
ら声をかけてくれるまで、ロッカーに向かってずっと立っていた  
のだろうか。

自分から声を出せなくても、キョロキョロするぐらいの身振り  
をすればいいのに、ぼーと立っているなんて…。若さなのか、  
何か理由があるのか、どういう心理なのか。ともあれなんとも不  
可解な光景に遭遇。

2016/2/2 ミンスキー逝く ばたばたして1月末にかけての数日の新聞を読んでいな  
(火)番外 かった。順に読み、27日の訃報記事にえっ?!を声を出した。  
ミンスキーが逝った。



1996年秋、仕事で出会った研究者に教えられた「マービン・ミ  
ンスキー」。翌年東京であったシンポジウム、すごい面々の一人  
にその名を見つけて、参加応募。

このためだけに東京へ行ったのですが、今となっては貴重な体  
験。ミンスキーは他のゲストたちとは相当に違っていた。プレゼ  
ンのスタイルしかり、会場の観客席を普通に言ったり来たり。

だからこちらから声をかけることも可能。近くを通ったとき、  
思い切って駆け寄った。ヘタな英語で話しかけた。ほんの数分だ  
けど、今もその時の光景が目には浮かぶ。

社団法人日本機械学会創立100周年記念  
国際シンポジウム

# ロボットと未来社会

## 開催のご案内

世界の著名なオビニオロジーラーを招き、未来の技術文明の基盤としてのロボットについて、その開発の心、さらに倫理規範などの本質的な問題を多角的に検討し、その光と影を明確化することにより、未来社会におけるロボットと人間の共存の可能性を探ります。

主催：社団法人日本機械学会  
後援：通商産業省、日本経済新聞社  
期間：1997年8月4日(月)～5日(火) 2日間  
場所：東京国際フォーラム ホールB  
〒100 東京都千代田区丸の内3-5-1

入場無料

募集人員：700名

お申込方法：●e-mail/Faxでのお申込

お名前、郵便番号、住所、電話番号、勤務先(ご職業)、ご所属、会員資格(日本機械学会員or会員外)を明記のうえ、下記にお送りください。

e-mail robot@simul.co.jp

Fax 03-5952-3794

●電話でのお申込

03-5952-2204 (受付時間 9:00～18:00)

締切：1997年7月25日

★応募が定員を越えた場合、抽選のうえ参加証をお送りします。

## プログラム

(一部変更になることがあります。予めご了承ください。)

8月4日

- 1 講演  
**ロボットと未来社会**  
アルビントフラー(未来学者)
- 2 パネルディスカッション  
**社会におけるロボットの役割**  
●座長.....石井威望(慶應義塾大学)  
●パネリスト.....池家運輝(政法大学)  
平井和雄(本田技研研究所)  
高井義幸(ロコロ)  
藤原伸介(ファナック)  
アルビントフラー(未来学者)

8月5日

- 3 パネルディスカッション *14:00*  
**ロボットの知能化と未来**  
●座長.....松本 元(理化学研究所)  
●パネリスト.....ジョージ・ペイ(カリフォルニア大学)  
ジョージ・ザラルト(LAAS)  
西 和彦(アスキー)  
ジューリア・バート(NMIT)
- 4 パネルディスカッション  
**人間と共存するロボットの行動原理**  
●座長.....近藤茂男(東京工業大学)  
●パネリスト.....三浦宏文(東京大学)  
小川和久(理研アナリスト)  
バーナード・ロス(スタンフォード大学)  
和田亮雄(北海道大学)

- 5 パネルディスカッション  
**フィクションの中のロボット、その光と影**  
●座長.....立花 隆(ジャーナリスト)  
●パネリスト.....小堀左京(作家)  
富野由悠季(アニメ映画家)  
山崎 誠(リンドアイ)
- 6 パネルディスカッション  
**ロボットの心と未来**  
●座長.....中村隆二郎(哲学者)  
●パネリスト.....ロドニー・ブルックス(MIT)  
マービン・ミンスキー(MIT)  
森 毅(ロイ研究所)  
藤田哲徳(NTT)
- 7 総括セッション  
**ロボットと未来に関するビジョン**  
●座長.....立花 隆(ジャーナリスト)  
●参加者.....招待スピーカー全員(予定)

ホングのロボットをはじめロボット展示があります。

社団法人日本機械学会創立100周年記念国際シンポジウム

# ロボットと未来社会

## ◆ 参 加 証 ◆

日 時 : 平成9年8月4日(月) 午前9時30分より  
(受付スタート 8:45)  
平成9年8月5日(火) 午前10時より  
(受付スタート 9:15)

会 場 : 東京国際フォーラム ホールB  
〒100 東京都千代田区丸の内3-5-1

お問合せ : ロボットと未来社会事務局  
e-mail robot@simul.co.jp  
Tel 03-3226-2822  
Fax 03-3226-2824

★このはがきをシンポジウム当日に会場受付にお渡しください。

\* 当時の記録 『旅は終わりに近づいて』 (1999年6月の旧リーズレター)  
<http://www.leeslee.com/LEESletter199906M>

このシンポジウムには「松本元」も参加しています。今ではなつかしい、読書歴を以前のレターにまとめています。

2016/2/9  
(火)

マーヴィン・ミ  
ンスキー

旧暦でも年が明けた。昨日は旧暦正月元日。朝から快晴に恵まれた大阪。朝の祭事を終え、お墓参りの帰り、広い交差点の一面に小さな公園。紅梅の木一本が新春を祝い、慶ぶ。

新春を前にミンスキー逝く。たまっていた1月下旬の新聞を順に読んで先週初め、27日の訃報記事にミンスキーの名。えっ?!身を乗り出し新聞を顔に近づけた。

『それなら、ミンスキーを読めばいいですよ、できれば原書を。本当にユニークですから』。事務所を開設した翌年1996年の秋、仕事で出会った情報系の研究者から教えられた。

「松本元」の『愛は脳を活性化する』読んですごくおもしろかったと言ったら、まず「佐伯胖」の本を勧められた。その際、『ただし、ちゃんとした本はだめですよ』。

うん?言われたことは簡単だけど、何を意味しているのかピンとこなかった。図書館や書店で何冊か手にして読んで始めて、“なるほど・・・”。論文のような本はまったくおもしろくない。

そんな感想を話したら、じゃ、次は・・・という感じでミンスキーの『心の社会』を教えられたのだった。頭の構造に雲泥の差はあるのだけど、思考パターンか何かが共通する。そんな感じがした。

松本元には自分から出会ったのだけど、そのことを口にして、それを聞いた人が、次から次へと知のナビゲートをしてくれる。そういう人が少なからずいるから世のなか救われていると感じる。

人工知能が社会一般に広がろうとするこのタイミングで逝ったミンスキー。人工知能は黎明期をすぎ、いよいよ、わたしたちの暮らしに入っている節目なのだと実感。

2016/2/19  
(金)

想像力

今日は雨水。大阪は昨日によく晴れている。気温も高めのように。昨日久しぶりにうつぼ公園を歩いた。雪柳がほんの少し咲き始めていた。陽射しはめっきり春。これからそこかしこに、春の風景。

昨日一日まとまった時間がとれた。終了した案件の残務処理をしていたら夕方になった。年初から何かと立て込んでいるが、仕事でいろいろな人と出会えるのは役得。

やはり文化系はおもしろい。農村舞台の保存に携わる人、芸術活動を支援する人、伝統工芸の守る人。コンサルティングの場面ではあるけど、こちらも興にのり話がはずむ。

”すごい人だ・・・”と直感した女性とも出会った。若手芸術家をバックアップするギャラリーの経営者。直観にすぐれ、鋭く、そして相手を思いやる。<肝のすわった>という言葉が久しぶりに頭に浮かんだ。

芸術的な創作するわけではないけど、創作する人たちの営みはわかる。中小企業を経営するわけではないけど、経営者の労苦はわかる。想像力を働かせることができる。

想像力、それを大切にしよう。人とのよい出会いのためにも

2016/2/25  
(木)

月

今朝の大阪はよく晴れている。梅はそろそろ終わりか、沈丁花が香りだした。『遅かれ早かれ、季節また巡る』、104歳の永平寺禅師がいつかテレビで語っていた。何気ない一言も、重い。

空の真上の太陽をまじまじ眺めることはできないけど、月ができる。一昨夜、仕事を終えて御堂筋を本町駅に向けて南へ歩いていたら、東の高層ビルの間から満月が見えた。よく晴れた夜空であった。

古くから人が月を愛するのは、月を見ている者が月に見てもらっている気になるからではないか。自分が月を見上げる前から、月はずっと自分の様子を見守ってくれているような気に。

街灯ややネオンを越えて、夜空から街を照らす満月。少し見上げれば、ほっこりとした気持ちにかえるのに、駅をめざして急ぎ足の人多し。そんなビジネス街を天から眺める月。

月に気をとめる気。そうすれば月からツキを授かるかも。